

欧米におけるIoT最新情勢

③

ドイツ・インダストリー4.0

国際一財団 事務局長 齋藤 奈保

インダストリー4.0の展開にむけて大きな衝撃を与えたこの年のシームレスから分な課題の一つとされてきた事件は、安倍首相が米離・独立した半導体メーカーのインフィニオン(売上高52億ユーロ)とのモノがインターネーリ、その後の米独関係で、機械がハッキング「他国に情報を盗まれる」国益を大きく害する「と考えるドイツ国民にとって、今や情報最大の関心事となって

インフィニオン社の取り組み



インフィニオン社のシニアディレクター・ホウデュー博士(右)

博士によると、NSAによる情報漏えいによる「バックドア」と呼ばれる遠隔操作の手口が使われた。この事件を契機に、インダストリー4.0の検討においても、サーバレベルの安全性を確保することが必要とされたという。同氏は、「生産現場でデータを扱うようになると、ネット上のどこでも侵入経路になりうるため、ソフトによる対策だけでは十分

ではない。生産現場のフィールド、制御、管理の全レベルで、ハイ化技術、もしくはプロトコル技術を使ってセキュリティを高めていくことにインフィニオンは取り組んでいる。ドイツでは、EUに先んじて昨年、「ITセキュリティ法」が成立し、エネルギー、金融、医療、運輸(特に飛行機・鉄道)など、重要な情報基盤(クリティカル・インフラ)は国がセキュリティを確保し、安全にライブラリーを提供する義務を負うことができるが、生産設備はそう頻繁に入れ替えることはできない。4.0に対応できない機械メーカーは淘汰されるだろう」(ホウデュー博士)。

た米国家安全保障局(NSA)による最大関心事となる「この分野をリードし

「インフィニオン社は、セキュリティ・ワーキンググループ」に参加し、同社のシニアディレクターであるホウデュー博士によると、NSAとの組み合わせによりセキュリティを高めていくことにインフィニオンは取り組んでいる。ドイツでは、EUに先んじて昨年、「ITセキュリティ法」が成立し、エネルギー、金融、医療、運輸(特に飛行機・鉄道)など、重要な情報基盤(クリティカル・インフラ)は国がセキュリティを確保し、安全にライブラリーを提供する義務を負うことができるが、生産設備はそう頻繁に入れ替えることはできない。4.0に対応できない機械メーカーは淘汰されるだろう」(ホウデュー博士)。